

**「植・食、健康」分野の産学連携によるモノ・コトづくり支援  
一般社団法人テラプロジェクト・まちラボ創設 10 周年記念  
「植・食、健康」シンポジウムを開催いたしました。**

(一社) テラプロジェクトは、まちラボ創設 10 周年を記念し「植・食、健康」シンポジウムを開催しました。

日 時： 3 月 24 日 (木) (受付 13:00～)  
参 加 者： 50 名 オンライン： 68 名  
会 場： 大阪富国生命ビル 4 階 エレベーターホール、テラプロジェクト・まちラボ A ルーム  
プログラム： 司会進行 一般社団法人テラプロジェクト 専務理事 峯平 慎哉氏

開 会	
ご挨拶 一般社団法人テラプロジェクト 理事長 小林 昭雄氏	
13 : 30	お祝いの挨拶： 富国生命保険相互会社 執行役員 不動産部長 浅見 直幸氏
はじめに (祝電)	
13 : 35	一般社団法人テラプロジェクト 理事長 小林 昭雄氏 タイトル： テラプロジェクト 10 年間の歩みと今後の抱負
第 1 部 講 演： 産学連携活動支援施設での取り組みと今後の抱負	
14 : 00	① 株式会社竹中庭園緑化 プランニングユニット 部長 松井 正樹氏 タイトル：「植物を用いた共用空間の創造的利用とその拡張とテラプロジェクトへの期待」
14 : 10	② 株式会社スタンドケイ 代表取締役 名倉 昂佑氏 タイトル：「これまでの取り組みと今後の抱負」
14 : 20	③ 一般社団法人まちラボ産学技術ユニオン 代表理事 吉田 茂男氏 タイトル：「最新科学と健康生活の統合による新時代のセイフティライフ まちラボユニオンが提案する中小企業向け産学連携体制」
14 : 30	④ 学校法人産業能率大学 総合研究所 西日本事業部長 渡邊 智樹氏 タイトル：「ちょっと変わった大学」
14 : 40	⑤ 株式会社ワークプロジェクト 総務部部長 池田 稔裕氏 タイトル：「保育園の食育活動」
14 : 50	⑥ 智の木協会 事務局長 大河内 基夫氏 タイトル：「智の木協会の歴史と近況」
15 : 00	⑦ 一般社団法人日本 DF WALK 協会 代表 山口 マユウ氏 タイトル：「人生 100 年時代を楽しく生きるコツは歩き方だった ～日常の歩きをちょっと工夫して転倒防止・生涯元気～」
休憩 (15 : 10-15:20) 集合写真 (講演者)	
第 2 部 講 演： 産学連携活動「テラプロジェクトへの期待」	
15 : 20	① 大阪大学産業科学研究所 複合知能メディア研究分野 教授 八木 康史氏 タイトル：「大阪大学とテラプロジェクトの共同研究の歩み」
15 : 30	② 大阪市 経済戦略局 観光部長 花澤 隆博氏 タイトル：「大阪都市魅力創造戦略とテラプロジェクト」
15 : 40	③ 日本みどりのプロジェクト推進協議会 企画・広報部長 砂野 智司氏 (公益財団法人大阪観光局 観光コンテンツ開発担当部長) タイトル：「日本みどりのプロジェクトで産学連携、みんなで未来を創る」
15 : 50	④ 一般社団法人大阪梅田エリアマネジメント 代表理事 植松 宏之氏 (流通科学大学 経済学部 教授/全国エリアマネジメントネットワーク副会長) タイトル：「グリーンゴールドを目指すエリアマネジメント」
16 : 00	⑤ 株式会社毎日放送 エリアプロデュース局 SDGs プロジェクト担当局長 田中 将徳氏 タイトル：「MBS“みどり”の取り組み」
閉会	
ご挨拶	
16 : 10	日本みどりのプロジェクト推進協議会 事務局次長 塩見 正成氏 (公益財団法人大阪観光局マーケ ティング事業部長)
10 周年記念交流会(17 : 00 -) (着席形式)	

お問合せ先： 一般社団法人テラプロジェクト  
大阪府大阪市北区小松原町 2 番 4 号 大阪富国生命ビル 4 階  
TEL 06-6312-3407

## ■1. 主催者挨拶:一般社団法人テラプロジェクト 理事長 小林 昭雄氏



産学連携支援活動が出来ればと思っています。

本日は、歴史的には、東京で初めて人力車が動いた日、世界的にはゴッホが結核菌を発見した日のようです。本日の誕生花はイカリソウだそうです。中国では春節を 13 億人の人が祝っておりますし、我が国では桜を迎える季節ですが、コロナに耐えに耐えこの 2 年間大変な時であったと思います。この外出しにくい状況にご参集ならびにオンライン参加いただき、弊社団の 10 年の歩みと今後の展望について拝聴下さり、大変ありがたく思っています。創設以来、皆様の温かいご支援を賜りまして、ローカルではブランド力がつきつつあるのかと、皆様方の日頃のご支援の賜物であると痛感しています。今日このシンポジウムを記念し、祝電や沢山のお祝いのいお花を頂戴し御礼申し上げます。本日は皆さんと実りある日になればと思いますし、今後 15 年、20 年とまちラボを中心に本日はどうぞ宜しくお願い致します。

## ■お祝いの挨拶:富国生命保険相互会社 執行役員 不動産部長 浅見 直幸氏



不動産部部長山岸朋行です。浅見が所要のため、代わりに一般社団法人テラプロジェクト創設 10 周年を記念致しまして、お祝いの言葉を述べさせていただきます。旧富国生命ビルは 1964 年竣工と老朽化が進み、2005 年頃に建て替えの話が持ち上がり、大阪市より社会貢献要素を持ったビルの建て替えを進められました。当時は産学連携についての知見を持ち合わせていなかった所、サントリーの青いバラの評価にご尽力されておられた大阪大学工学研究科の小林先生を紹介頂き、わらをもつかむ思いで当時の担当者が小林先生を訪ねて、「植・食・健康」をテーマとする産学連携プロジェクトにご協力して頂けることになり、2011 年 4 月から小林先生に丸投げする形でお任せした次第です。小林先生は大学と違いオフィスビルの中で出来ることを試行錯誤しながら、10 年間ご苦労されたと思います。それでも次から次へと新しい提案と活動を続けて頂き、10 年に至ったということです。健康であることのかなめは食とみどりの環境であると思っています。テラプロジェクトは創設時よりアイデアをカタチに！を念頭に、いかにして形にするかを重視しており、その一つが日本みどりのプロジェクト推進協議会の事務局として活躍されていることは皆さんご承知の事と思います。これはテラプロジェクトがこれまでやってきた先進的な活動が評価され形になってきた表れかと思えます。テラプロジェクトにはサジェスションをする智の木協会という団体があり、2008 年に設立された智の木協会は大阪大学、企業様の協力で出来上がった組織で、生命保険会社は非常に保守的ではありますが、智の木協会もしくはテラプロジェクトを通じて先進的な取組が出来ることは大変心強く思っています。この後、テナント様の今後の抱負などをお聞きすることが出来ると思いますが、その中でソーシャルビジネスの重要性にふれられることもあると思います。その中でテラプロジェクトさんが今後ますます重要な役割を担っていただけるのではないかと考えています。小林先生にはますます頑張ってくださいと思うのと同時に感謝申し上げます。今思いますと小林先生と巡り合わなければどうなっていたのだろうかと思えます。合わせまして小林先生をサポートして頂いたテラプロジェクトのスタッフの皆さんや賛同いただきご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。以上でお祝いの言葉とさせていただきます。

## ■はじめに: テラプロジェクト 10 年間の歩みと今後の抱負 一般社団法人 テラプロジェクト 理事長 小林 昭雄 氏(大阪大学名誉教授)

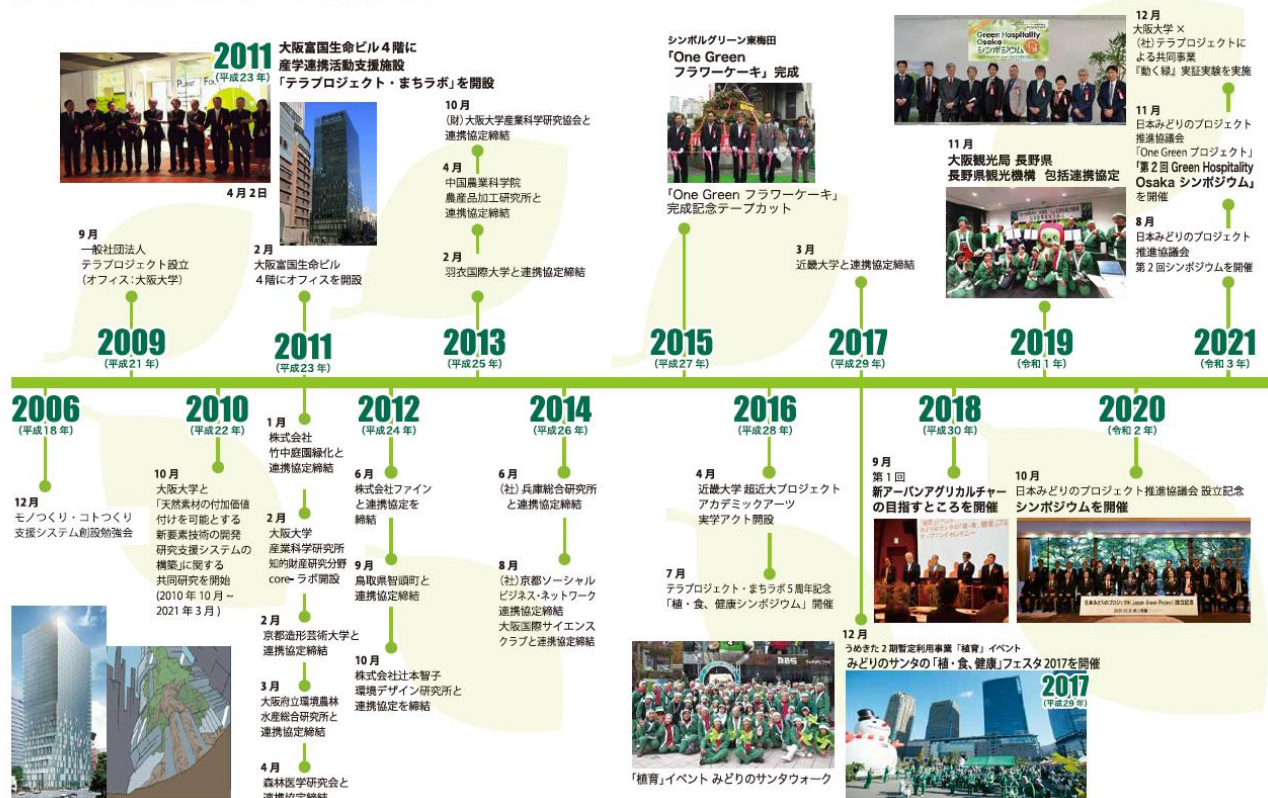


た。まち中の課題も同様、Town から University に持ち込む時代になっているが、それでは大学内の賛同は得にくく、

10 年を振り返りまして、日本もモノ作り、コト作りとして産学連携やベンチャーという動きが 2000 年頃からあり、小泉総理（当時）が大学発ベンチャー 1000 社を目指してという動きがありました。その中に入りたいという思いがあり、当時遺伝子組み換え植物としてサントリーの青いバラの安全性を評価する会を岡山県の日本植生さんの支援を得てスタートさせました。日本はベンチャーがなかなか育ちにくい環境で、一つは大企業中心の社会が原因で、そうであれば、小企業を中企業へ、中企業を大企業へ、大企業はもう一度小企業から新しい産業を生み出す仕組みが必要だと感じて、富国生命さんにもいろいろと提案させていただきました。これまでの大学ですと LAB で開発したものを Living room で役立てる、その時代から、Living room 発の課題を LAB に持ちこみ開発する時代が変わってきまし

産学連携も文部科学省を向いた活動が中心で、市民生活の中で必要とされる産学連携にはなっていない。私たちはモノ作りからコト作りの重要性に早く気づくべきで、そのための新システムが必要です。高齢社会に突入している日本で、高齢者の活躍の場はなかなか得られにくい状況ではありますが、私共はビジネスチャンスが沢山あると考えています。

## テラプロジェクトのあゆみ



10年史を振り返りますと、2007年頃に富国生命ビルの建て替えのお話があり、2005年は愛知万博で、これからの日本の方向性としてモノ・コトづくりの重要性をお話したこともあり、勉強会などを通じて提案している中で、2008年に智の木協会を設立し、2011年4月からテラプロジェクトは、まちラボを中心に活動を開始することが出来ました。テラプロジェクト設立に向けて勉強会を開く中で、これからの日本に必要なものは、「グリーン」ということをベースに話あっておりました。ビルの設計はフランス人のドミニクペローさんで一本の太木をイメージしたもので、ちょうど私が愛知万博で提案した1000年の木をイメージしたビルと共通点があり、びっくりした思い出があります。テラプロジェクトは設立以来、社会貢献活動を推進するソーシャルカンパニーを生み出す組織として活動してきております。それが少しずつ皆さんに認められるようになってきたのは大変嬉しいことですし、2008年に創設した智の木協会からの流れが、現在のOne Greenプロジェクトにつながっております。



テラプロジェクトの連携システムは、身体でいうと大脳（智の木協会）、小脳（テラプロジェクト）、筋肉（企業、NPO など）、細胞（市民）に相当する仕組みをイメージしてつくっていますが、ここ5年ほど、延髄に相当する部分が必要となり、様々な一般社団法人を設立してきました。大脳に相当する智の木協会は、植物を愛する人はどなたでも入会して頂ける協会で、富国生命さん、清水建設さん等が企業を代表している。この仕組みはテラプロジェクト運用の基本的な考え方としています。これらの考え方に従い、これから5年、10年と皆さんと共に進んでいければ幸いかなと思っています。ご清聴ありがとうございます。

## ■第1部 講演：産学連携活動支援施設での取り組みと今後の抱負

### ① 株式会社竹中庭園緑化 プランニングユニット 部長 松井 正樹氏

タイトル:「植物を用いた共用空間の創造的利用とその拡張とテラプロジェクトへの期待」



当社はアーバングリーンラボと名付けてまちラボで活動しております。当社は、観葉植物のレンタル、商業施設、ホテルなどのディスプレイ、フラワーショップの運営、ブライダルフラワー、造園工事、植物管理、胡蝶蘭の生産などを中心に事業を行っております。富国生命ビル地下、1階でも季節感のある空間づくりということで、春夏秋冬の季節装飾をさせて頂いております。近隣ではディアモールでの桜の装飾や、東京の通勤経路を一晩で壁面緑化でみどりある空間を作るなど、都市部での季節感の演出やみどりの無い空間をみどり化することに力を入れています。この10年間では、パブリックスペースの積極的な緑化を小林先生といろいろ考えて具体化してきました。植物を入れる家具や照明の開発を始め、積極的に外に出ていき公共空間の芝生化等の実験的試みや森にバスをチャーターして、都会

の人々に森林体験を提供したり、まちラボでも建物の中の芝生化を実験的に行いました。新しい都市緑化への取り組みとしては、URBAN GREEN LIBRARYとしてビルの公共スペースに本と緑化を結びつけるとどういうことが出来るか実施してみました。この動きは本町へも波及しています。アーティスト作品の展示利用料をその場の緑化空間の費用に還元する仕組みを作ったらどうかというアイデアも実験してみました。どうしたらビルの中に緑化スペースを作ることが出来るかを考えたときに、屋上から地下まで縦方向に緑化する方向性も考えてみました。最終的には小林先生とお話した内容ですが、フロアごとのみどりを見える化して、常設の緑化と季節装飾などがこのビルに対してどれくらいの環境貢献をしているのかというエビデンスを可視化して皆さんに情報提供するというのはどうか、それらが発展的に周辺のビルに波及し、このビルを中心に都市の緑化が面的に広がっていくことを将来的な室内緑化の維持管理サービスとして拡張化していけないかということを考えています。これを是非実現してこれからの都市緑化に少しでも貢献していけたら良いと思っています。

### ② 株式会社スタンドケイ 代表取締役 名倉 昂佑氏

タイトル:「これまでの取り組みと今後の抱負」



当社は、メディア事業、アウトドア事業、アグリ事業の3つの事業をしています。核ビジネスは、BBQ事業の運営委託になりまして、全国12か所の管理運営を行っています。4月からは福島県、姫路市等でも管理運営が始まります。BBQ宅配事業では、コロナ前は大阪で14万人ほどのご利用をいただいていたとして、付随イベントも実施させていただいておりましたが、百貨店の屋上のような都心部でのBBQ場の営業は、コロナの影響を大きく受けていて、この2年間は開店休業状態でした。農業事業は、大阪（茨木）と滋賀（守山）でいちご農園を運営しています。特別栽培農産物（農薬を半分以下）でいちごを育てています。出張いちご農園もやっていて一次産業を中心に、付随事業としてマルシェの開催運営、フラフルカフェを梅田でやったりしています。メディア事業は、我々はデジタルマーケティングが得意で、入口をメディアでつくり、アウトドア事業や

アグリ事業に集客するモデルとしてやっています。これまでのまちラボでの取り組みとして、2020年3月にまちラボに入居して、事務所とBBQ商品の展示などを行っています。コロナ禍でなかなか自分たちの得意な人集めが出来ない中で、出張いちご狩りのいちごをまちラボの緑化スペースにおいていただいたり、我々のイベントにテラプロジェクトさんに参加して頂いたりといったぐらいなのですが、今後の取り組みとして、農園に行けない方たち向けに出張いちご狩りを始めたのですが、最近は卒園旅行に行けない幼稚園や住宅展示場、ショッピングモールなどからご依頼をいただいています。新たに出張いちごトラック（15m）でいちご狩りが出来るトラックを集客の目玉として、テラプロジェクトさんのイベントの集客の目玉として使っていただけるのではないかと考えています。もう一つ社会貢献という枠組みですと、社会福祉法人との連携として農園での就労支援を進めています。最後になりますが、イベントへ人を集めるのが得意な会社ですので、何らかの形でまちラボに貢献できればと考えています。

③ 一般社団法人まちラボ産学技術ユニオン 代表理事 吉田 茂男氏  
 タイトル:「最新科学と健康生活の統合による新時代のセイフティライフ  
 ～まちラボユニオンが提案する中小企業向け産学連携体制～」



小林先生とは50年以上の仲で、愛知万博では、中部6県の依頼で水の展示をやっていました。その頃に小林先生とはこれからの産業支援の方向性を確認し合ったことを覚えています。科学技術庁からの依頼で万博の後始末として、集積した知識をどう残していくかという議論を和歌山の白浜温泉で議論したこともあります。当時は、2000年問題で新しいことをやろうという機運が高まっていました。私は2005年に理化学研究所を定年退職し、その時、理化学研究所は特殊法人ですが、一般社団法人化の方向性を考えられている中で、小林先生から一緒にやりませんかと誘っていただいて、具体的にどういう組織を作ることができるのか、小林先生は大学の中から、私は外から検討した記憶があります。大阪大学に小林先生がおられるときに、結局多くの方に賛同いただいたのがLLCで新しい法人を立

ち上げるのが良いと分かりまして、LLC フロンティア・アライアンスというのを大阪大学内に作りまして、一種のベンチャーラボのようなものを動かすといったところから、私達の産学連携活動が始まったと思います。私は水をテーマに4年近く活動し、いろいろな方々とお話をする機会があり、その中でサンワード商会の喜多さんと出会い、この方の依頼でいろいろな物理化学でも良くわからない環境改善水の現象を確認することになり、研究結果をディオデオ水として発売したところ、さまざまな発展的な機能が確認され、消臭に加え抗ウイルス活性等も調査することになりました。大阪大学産業科学研究所内での実験では新型コロナウイルスの不活化も認められる結果となり、新たな産学連携の可能性を示すことができました。ここ2年程コロナで活動が思うように取れない時期が続いていますが、出来るだけ新しい発見を続けていくように、我がチームの活動はテラプロジェクトの活動方向とも合うことですので、足並みをそろえて今後も頑張っていきたいと思っています。

④ 学校法人産業能率大学 総合研究所 西日本事業部長 渡邊 智樹氏  
 タイトル:「ちょっと変わった大学」



産業能率大学について、お話をさせていただきます。坂本龍馬の有名な写真を撮った人物(上野彦馬)をご存じでしょうか? 長崎生まれで、幕末から明治時代にかけて活動した日本初の写真家と言われている人物です。その上野彦馬の甥にあたる上野陽一が本学の創業者になり、現在の理事長はお孫さんになります。上野陽一も彦馬同様に当時日本になかった職業である日本初のコンサルタントを始めた人物と言われています。適材適所、人の持前を生かすという科学的な管理方法を「能率学」と名付けて実践した人物です。具体的には戦後の公務員制度の確立に努め、ムリ・ムダ・ムラを定義化して現場改善を行ったとされています。マネジメントが日本に入ってきたときに、経営・管理・能率と上野陽一によって訳され、学校法人産業能率大学の校名にもなっています。1925年創業で、夜間の短期大から初めて、社会人教育、コンサルティングは大学の付帯事業とし

て存在しています。後3年で100周年を迎えます。学生教育事業ではスポーツイベントのプロデュース、スポーツをビジネスとして成立させる等の授業をやっているとして、湘南ベルマーレのスポンサーをしています。社会人教育事業は、このまちラボで行っている事業で、経営指導、企業研修等を中心に活動しています。今から40年前(1983年)にはオリエンタルランド様から、「まったく新しいコンセプトの遊園地を設立予定だが、今の人事制度で新しいサービスを提供する従業員の働きを促進するか調査して欲しい」との依頼がありました。当時テーマパークという言葉もない中で、本学研究員がコンサルティングし、問題点と改善の方向性を提言したようです。最近では東京メトロの地下トンネルメンテナンスの効率化をデータ解析によって行うプロジェクトに取り組み、データサイエンスアワード2017最優秀賞を受賞しました。もう一つのトピックはe-Learningを始めました。20年ほど前に一度始めたのですが、当時は時代を先取りしすぎて上手く行かず直ぐに撤収致しました。今年度は再参入ということで、ご興味ございましたらホームページをご覧くださいければと思います。まちラボでは、社会人教育事業の西日本事業部拠点、大学通信教育課程のスクーリングを行っています。協働イベントはなかなか出来ていないのですが、2019年11月20日に日本酒蔵元に学ぶ組織変革の極意という利き酒をしながら酒蔵の組織について学ぶ機会を共同開催した実績がございます。これからの活動は、オンライン時代における地域活動の意義を探究しながら事業活動に取り組みたいと思います。今後の抱負としては、まちラボ各社様の知見を学び内外の活動に活かしていきたいと思っています。

⑤ 株式会社ワークプロジェクト 総務部部長 池田 稔裕氏  
タイトル:「保育園の食育活動」



当社は、保育士の人材紹介、保育園の運営を事業として行っています。保育園では大阪市、堺市、箕面市で保育園を運営していて、0歳～6歳までのお子さんをお預かりしています。保育時期での食事習慣はその後の身体や脳の発育に非常に大きな影響を与えていると考えていますので、この時期の食事は非常に大切なものと考えています。当社の食育の目標は、食を営む力の育成に向け、その基礎を培うことと、生活と遊びの中で、食べることを楽しみ、食事を楽しむ子どもに成長していくことを目指しています。年齢別の取り組みとして各年齢に応じて食育のねらいと内容を変更しています。食べ物の栽培も行い、きゅうり、トマト、なす、さつまいもなどの栽培・収穫体験や枝豆むきなどの調理補助やお買い物の機会を提供し、食べることの楽しさに繋げるようにしています。もちつき大会は大きなイベントで、非常に人気があり、食べ物に関する教育に力を入れています。

自分の子どもの時は保育園の内容についてはあまり関心がありませんでしたが、いざ仕事となると、保育士さんたちが日々悪戦苦闘している様子を知り、いまさらながら感謝しているところです。当社では今後も食べ物や植物の栽培を含めて食育に力をいれた活動を進めていきたいと考えています。

⑥ 智の木協会 事務局長 大河内 基夫氏  
タイトル:「智の木協会の歴史と近況」



智の木協会は、2008年5月4日（みどりの日）に発足しております。21世紀になり「みどり」が「金」に匹敵する。あるいはそれ以上に大切なものになるのではないかとGreen Goldの時代が到来しつつあるのではないかと、ということで、One Greenを掲げ個人、企業が植物を植えていく事を大切に、行動するための組織づくりを目指して発足したのが智の木協会です。発足当時はコクヨの黒田専務（当時）、月桂冠の阿部専務（当時）に大変ご尽力いただいたと聞いております。発足当初は大阪大学の中にございましたが、まちラボオープンと同時に入居し、会員交流サロンを開設しました。テラプロジェクトには智の木協会の活動を具現化する際に、大変お世話になっております。現在の理事長は寺谷（前智頭町長）さんにお勤めいただいております。智の木協会は個人でも会員になることが出来ます。

シンポジウムやワークショップを開催しています。会員の皆さんにはお好きな樹花を登録していただき、ホームページで紹介もしています。今日はその後、2019年からの活動についてご報告します。一つは、2019年11月「光の競演」という御堂筋でのイルミネーションの点灯式にテラプロジェクトが実施しているみどりのサンタのパレードが行われ、そのパレードに参加することが出来ました。智の木の森づくりの第1回を鳥取県智頭町で実施することができました。2019年～2020年の講演会は年2回実施、シンポジウムは年1回開催することができました。2019年からは会員様からの話題提供という形で、これまでに9回智の泉談話会を実施しています。智の木協会はこれまでの活動に加え今後特に日本みどりのプロジェクト推進協議会の進める5つのプロジェクトの一つであるOne Greenプロジェクトの中で、智の木の森づくりを進めていければと思いますので、皆様からのご支援を賜ればと思います。

⑦ 一般社団法人日本DF WALK協会 代表 山口 マユウ氏  
タイトル:「人生100年時代を楽しく生きるコツは歩き方だった  
～日常の歩きをちょっと工夫して転倒防止・生涯元気～」



当協会は、90歳になってもハイヒールのはける人生、ゴルフの出来る人生を目指し、寝たきり防止を掲げて活動しております。ウォーキングに携わって20年ほどになりますが、約7万人以上の方々とウォーキングをしてきました。インストラクターの育成や企業様の健康経営、老人ホームや学校でのイベントを通じて、活力寿命の延伸ということをお話しさせていただいております。テラプロジェクトの小林先生とは、日本一明るい経済新聞の竹原編集長に6年前にご紹介頂き、もうすぐ当協会のスタジオがまちラボにオープンすることになっています。これまでテラプロジェクト様とはみどりのサタイベントで5年ほど前から一緒にさせていただき、昨年は梅田歩くフェスで一緒にさせていただきました。今年も歩くフェスで一緒にさせて頂ける機会を頂き本当に有難うございます。

今日はせっかくですので、カラダチェックをしてみましょう。まず

足腰の筋力チェック。次に柔軟チェック。最後にバランスチェック。これは生涯自分の足で歩くために必要なチェックです。私の歩き方は、3つのポイントがあります。①身長-100cm=歩幅で、今よりも5cm～8cm広げて歩く、②今より膝を20cm上げる、③腕は真後ろにふる。まちラボE区画でスタジオを開設するにあたり、小林先生に頑張ってみたいかと声をかけいただきましたので、小林先生には120歳まで長生きして頂いて、沢山アドバイスして頂きたいと思います。本日私と出会った皆さまは1人も寝たきりにさせません。みんなで120歳まで長生きして、好きな時に好きな所へ自分の足で歩いていきましょう。

## 第2部 講演：産学連携活動「テラプロジェクトへの期待」

### ① 大阪大学産業科学研究所 複合知能メディア研究分野 教授 八木 康史氏 タイトル:「大阪大学とテラプロジェクトの共同研究の歩み」



私は2013年に産業科学研究所の所長をしておりまして。その頃に産業科学研究協会とテラプロジェクト様とが連携協定を結ぶというときに所長をしておりまして、テラプロジェクト様との関係がスタート致しました。その後2015年に大阪府が推進する緑化プロジェクトとして、大阪のど真ん中にフラワーケーキを作るということで、ちょうどそのとき私は所長から理事、副学長に変わっているところで小林先生と仲良く時を過ごさしてもらったことを懐かしく思い出されます。偶然ですが、副学長が終わって、普通の教授として研究室に戻っていますが、2021年から共同研究をやろうということになりまして、ちょうど私の研究室でも植物の研究をやり始めたところで、例えば発芽の状態や葉っぱの状態や分別の研究

や葉脈を可視化する成長をモデリングしていきましようという研究をしまして、ちょうどテラプロジェクト様の研究がマッチングするということで、共同研究が開始されて、まさに今年も修士の学生が卒業していきましたが、卒論のテーマとしてやらせていただくといった関係でございまして。植物の成長を動画で撮影し、AIの技術でトラッキングして可視化していくということを出来るような技術をやっています。そういうのが出来ると成長が将来予測できたり、成長時における課題が分析できるような技術が出来たらと思うています。これからも共同研究を数年一緒にやれるのではないかと考えています。一緒にいい植物の技術が出来ればとおもっていますので、今後もぜひ一緒にお願いします。

### ② 大阪市 経済戦略局 観光部長 花澤 隆博氏 タイトル:「大阪都市魅力創造戦略とテラプロジェクト」



私と小林先生との関係は、皆さんの中で一番浅いと思います。2021年11月に実施された「第2回 Green Hospitality Osaka」シンポジウムで話をしてほしいと言われ、小林先生からいろいろお話を聞かせて頂きましたら、みどりでおもてなしをして、大阪で観光客の皆さんを癒しと楽しんでもらおうとする取り組みと聞いて、私は公園を作ったりなどは出来ないの、最初はみどりの活動と聞いてどうかと思ったのですが、そういうことでしたら一緒に活動できるのではないかと思います、お話をさせてもらいました。今日は大阪府・市で取り組んでおります、大阪都市魅力戦略2025というのを作っておりますので、ご紹介したいと思います。魅力共創都市・大阪というのを目指する中で、今日は産学連携のお話を沢山聞けたのですが、そこに官も入れて、産学官みんなで作っていかようとしておりまして、今はコロナで多大な影響が出ておりますが、

2025年の万博に向けましていろいろな活動を一緒にしていこうとしておりまして、今日沢山ご紹介がありましたが、この中でも公共空間を使うとか民のチカラを活用して頂く際に、行政にはこういうところを協力して欲しいということがございましたら、目的が合致するものについては一緒に協力させてもらおうと10の都市像をつくって施策展開を行っています。目指すべき都市像として10個の都市像のなかから、私の担当は①安全で安心して滞在できる24時間おもてなし都市、②大阪ならではの賑わいを創出する都市、③多様な楽しみ方ができる周遊・観光都市、そして、これは外国からを含めて沢山の観光客にお越し頂きたいのですけれども、その時に今日のOne Greenの取り組みですが、最初は

大阪の田舎の山の中でやる取り組みかと思ったのですが、先生のお話を聞くと、都市部ならではの緑化の仕方があり実践されておられて、今日いろいろな発表を聞いて勉強になったのですが、大阪の都心で企業さんもそうですけど、街中に植木鉢を1つ置くとか家庭や職場で植木鉢を置くとか、そこにみどりがあることでなごみますよね、癒されたり大阪に来てよかったなと思ってもらえるようでしたら、一緒に何かできたらと思っています、今回もお呼びいただいて大変ありがたいなと思っています。今観光客はどん底で減っていますが、with コロナ、ポストコロナでは、コロナ前には1152万人にお越し頂いていましたので、入国規制解除から2年後には同じ水準に戻していきたいと思っています。官民共創で本日のお願いとしましては、おもてなしの大阪としてグリーンを使った取り組みを続けて頂きたいのと、今朝の会議でエリアマネジメント団体の企業様とご一緒することがあり、2025年の万博に向けて何かやっていきたいということです、テラプロジェクトのみどりの活動をご紹介して各エリアでも同じような活動をしませんかというお声をいただきましたので、もし連携できるようでしたら是非連携していただけたらと思います。

**③ 日本みどりのプロジェクト推進協議会 企画・広報部長 砂野 智司氏(公益財団法人大阪観光局 観光コンテンツ開発担当部長)**  
**タイトル:「日本みどりのプロジェクトで産学連携、みんなで未来を創る」**



私は、公益財団法人大阪観光局におりまして、テラプロジェクト様、長野県様他のメンバーと日本みどりのプロジェクト推進協議会の事務局を務めさせていただいております。先ほど発表された大阪市の花澤部長の観光課とも連携して大阪市の費用対効果、経済効果の発展に努めています。観光を中心として大阪を盛り上げていく。今後万博とIRが予定されていますので、大阪がどのような方向を目指していくのか、その中で2004年に観光立国宣言が発表され、インバウンドの数も1200万人ほどございましたが、今は0になっていますが、少子高齢化を全国で考える上では大阪ももちろん関係します。インバウンドに大阪にどうやって来ていただくか、日本をどう楽しんでもらうのか、日本はいい国だなと思っていただくにはどうしたらよいのか、ということを考えるときに、みどりは確実に影響を及ぼします。これはニューヨーク、パリなどの世界

の観光都市とよばれるところでは、経済とみどりが共存している街がほとんどでございますのでこれらの観光都市を参考に我々も大阪にみどりを広げていきたい、そのためには大阪観光局や官のみではなく、テラプロジェクト様のような社会実装をされている団体様にもご協力頂きたいということで、一緒に事務局をやっていると考えています。日本みどりのプロジェクト推進協議会は全国組織でございます、2年前に発足しました。当時の環境大臣の小泉大臣にもお越し頂いて、一般の方々にもより多くの方々に参加して頂こうと、アンバサダーに市川海老蔵さん、渡辺謙さんなどをお迎えして、多くの方々に参加していただけるような仕組みにしていきたいと思っています。次のステップとしてみどり化が確実にサステナブルになるための儲かる仕組み、どうやったら気持ちよくお金をはらってまちづくりにつながっていくのかをみんなで力を合わせて考えていきたいですし、日本の国土の7割以上は森林に守られておりまして、世界的にはベスト5に入る森林大国にも関わらず大阪は少し緑視率が低い街の一つです。万博を開催する街としては、都市緑化、屋上緑化、室内緑化など企業様、住民の方々と1つの鉢植えを置くだけでも緑視率も進んでまいりますし、CO2の削減に少しでも貢献するなど、こういったところを進めるために立ち上げた団体です。10月25日に発足した団体ですが、くしくも翌日の26日には当時の菅総理が脱炭素宣言を出された日でもありますので、ちょうどタイミング的には良かったのかと思います。理念としては災害を防ぐ、森を守る、森に棲んでいる動植物を守るということを具現化していくところですが、このコロナの2年の間に大きく条件も変化してきて、人との距離を保ったうえでどんな楽しみを見つけていくか、ビジネスでも出社しない形態の中でモチベーションを下げずに、家庭でも環境を整えながら楽しいさやWell-beingを維持していくためには「みどり」が重要な役割になってくると考えています。日本みどりのプロジェクト推進協議会は、国の方向感とSDGsに取り組んでいる企業と、大学の知見を取り入れながら、まず5つのプロジェクトを立ち上げています。その中の一つにOne Greenプロジェクトがあり、それぞれの自治体、皆さん方のOne Greenを拡大することで、脱炭素に繋げていく、身近にできるみどりの取り組みからはじめていくというのはテラプロジェクトさんがこれまでいろいろなことを実践されていらっしゃるの、これを上手く私たちは活用させて頂いて、もっと全国に広げていきたいと考えています。その中の1つに植樹もありますし、プロジェクトの一つとして拡大していただけるような活躍をテラプロジェクトさんには期待しておりますし、まだまだ足りない知見をいただければとおもっています。長寿大国、環境に良い国、都市、もちろんウォーキングも含めて歓迎しますので、万博に向かって、日本を、大阪を、国外にアピールできる取り組みにしていきたいと思っています。テラプロジェクトさんには非常に実務として期待しておりますので、引き続きご協力宜しくお願い致します。

④ 一般社団法人大阪梅田エリアマネジメント 代表理事 植松 宏之氏（流通科学大学 経済学部 教授 / 全国エリアマネジメントネットワーク副会長）  
タイトル:「グリーンゴールドを目指すエリアマネジメント」



テラプロジェクトへの期待というお話を頂きましたので、グリーンゴールドを目指さなくてはならないという思いも込めてお話しをさせていただきます。エリアマネジメントとは、地域における良好な関係や地域の価値を向上させるために権利者の方々が主体的に取り組む活動でございます。なぜそのような活動を行うのかというと、少子高齢化が大きな課題で、社会資本も老朽化が進んでいます。なんといっても財政難で借金が1000億円を超えている状態で戦後の右肩上がりの社会ではないという時代で、その中で重要なのは小林先生がとりくまれているソーシャルキャピタル（信頼・互酬性・ネットワーク）を高めるということです。これは世界の共通認識で、今度は大きなビルばかりを作るのではなく、このビルやうめきた2期などの機能性をもったビルなども良い取り組みですし、都市を育て

るという気持ちがますます大事になってきます。いろいろな社会課題がございますのでそれは民だけでやる、官だけでやるということではなく、官民連携で地域のまちづくりが必要になってきます。弊社は2017年に内閣府から助成金を頂き、歩行者中心のWalkable Umeda構想を立案し、官の支援を頂きながら歩きやすい街づくりをおこなっています。エリアマネジメントとテラプロジェクトの連携プロジェクトとして「まちなか博覧会」梅田あるくフェスを5年間実施する予定です。公共空間の使用許可を頂いて様々な健康、食、運動などのイベントを提供し多様な方々と楽しむことが出来ればよいと思っております、小林先生と共に官民のプロジェクトを進めていければと思っております。

⑤ 株式会社毎日放送 エリアプロデュース局 SDGs プロジェクト担当局長 田中 将徳氏  
タイトル:「MBS“みどり”の取り組み」



MBSは放送局なのですが、どのようなみどりの取り組みを行っているかについて、プロセスも踏まえてお話しさせていただきます。現在ワインを作らせて頂いております。なぜこの取り組みを始めたかと申しますと、2014年に本社新館をオープンさせまして、建物が少しみどり色っぽいのもあり、コーポレートカラーもみどりに変更しました。今後の活動の中身をどうするかということになり、Mビジョン推進室が創設されました。新しいビルのお披露目をするというときに2人しかいない部署で相談した人がカタシモワインフードの高井社長で、一度ワイン畑に來いと言われて、社員が自分たちでブドウから作れといわれ、生産者の高齢化により耕作放棄された畑でブドウを作ることになりました。この畑は実はすごくいい畑で、3年前2019年のG20の際に我々のワインがオープニングの乾杯に使われ当時のトランプ大統領、

プーチン大統領、習近平さんなどにお召し上がりいただきました。畑での作業は冬に選定作業を行い、春新芽がでて、初夏に小さな実が出来始め、鳥よけの網掛け作業を行い、8月上旬にまだちょっと青い状態のデラウエアを収穫し、しばらく寝かせて9月に圧搾して発酵させてワインにしていきます。1次発酵分を瓶に入れます。温度管理された倉庫で2次発酵させ澱飛ばしという作業をやって1年ちょっとでお土産として完成するのですが、2012～2014年にかけての作業でこれらの工程を作ることが出来ました。この作業を続けて9期目になります。小林先生との作戦でこのワインの売り上げをみどりのフェアトレードショーケースを通じて寄付していく仕組みを組み上げていこうとしておりまして、多くの方々に買って頂けたらと思っています。この活動を増やしていく事で、みどりが増えていけばいいと思いますので、今後ともみなさん宜しくお願い致します

閉会の挨拶: 日本みどりのプロジェクト推進協議会 事務局次長 塩見 正成氏(公益財団法人大阪観光局マーケティング事業部長)

小林先生との出会いを振り返りますと、2019年の光の競演の中でみどりのサンタのお話しが出ましたけれども、その時にテラプロジェクトさんの活動を知ることになりました。その後小林先生とは日本みどりのプロジェクト推進協議会の事務局次長をご一緒させて頂いております。先ほどまで10周年の冊子を見せていただいておりますが、2009年に



テラプロジェクトが創立し、2011年にまちラボが開設されたということを知りました。その時からいわゆる産学連携であるとか、あるいは、コト作りからモノ作りを発想するということは当時としては、まったくなかった中で先見の明があったのだなと感じました。当時私はインバウンドが増える中でイケイケどんどんで数を稼ぐ形で資源を食いつぶしてきた観光で、ようやく多様性であるとかサステナブルな持続的な観光ということで、ようやく観光も時代に追いついてきたという中で、みどりのプロジェクトの活動も単なる提言団体ではなくて、全国的な組織ではありますが、まずは大阪の中でしっかりと形に残すという所でテラプロジェクトさんと大阪観光協が汗をかいてやっていかなくてはならないと考えています。小林先生のさまざまな活動に対して真摯に取り組まれている姿は我々も見習わなくてはならないと思っています。

ますし、100歳、150歳まで一緒に活動できればと思っておりますので、引き続き宜しくお願い致します。

#### **集合写真：**発表者と共に



#### **司会進行：**



峯平専務

## 交流会：



会場：まちラボ A ルーム



お弁当、マグロ握り（大起水産）



進行：峯平専務



主催者挨拶：小林理事長



乾杯：村岡先生（近畿大学名誉教授）



乾杯酒：マイティスパークリングワイン



参加者の皆さんから一言ずつ



中締め：森川先生（近畿大学教授）

## お祝い花：



富国生命保険相互会社



三菱地所プロパティマネジメン(株) 清水建設(株)



学校法人産業能率大学



(株)竹中庭園緑化



(一社) 日本 DFWALK 協会



智の木協会



蘇州人旺企業管理諮詢有限公司

**電報：**大阪商工会議所、大阪国際サイエンスクラブ

**会場：**大阪富国生命ビル 4 階エレベーターホール



お問合せ先: 一般社団法人テラプロジェクト  
大阪府大阪市北区小松原町 2 番 4 号 大阪富国生命ビル 4 階  
TEL 06-6312-3407

## 10 周年記念冊子：



## お土産：



カラダに優しいクッキーGOJIAI



はとむぎ美人粉



カムカムグミキャンディ



マヌカハニーキャンディ

## 事務局：

### 受付、会場設営、運営サポート



酒井研究員

滝本総合企画室長

### 会場設営、映像、音響



木村研究室長

### 会場設営、記録、運営サポート



八木特別研究員（富国生命）

お問合せ先：一般社団法人テラプロジェクト

大阪府大阪市北区小松原町 2 番 4 号 大阪富国生命ビル 4 階

TEL 06-6312-3407